

令和6年

# 雲南市議会 3月定例会 一般質問通告一覧表

【一般質問日程 令和6年3月1日～3月6日】

令和6年雲南市議会3月定例会 一般質問通告一覧表 目次

順番	日程	議席番号／氏名	質問方式	ページ	順番	日程	議員番号／氏名	質問方式	ページ
1	3/1(金) 13時00分～	17／藤原 信宏	一括	1～3	11	3/5(火) 13時00分～	13／原 祐二	一問一答	22～24
2		11／松林 孝之	一問一答	3～5	12		8／上代 和美	一問一答	24～26
3		6／梶谷 佳平	一問一答	5～7	13		2／安田 栄太	一問一答	26～28
4	3/4(月) 9時30分～	12／中村 辰眞	一問一答	7～9	14	3/6(水) 9時30分～	3／児玉 幸久	一問一答	28～30
5		5／鶴原 能也	一問一答	9～11					
6	3/4(月) 13時00分～	14／佐藤 隆司	一問一答	12～14					
7		1／多賀 法華	一問一答	14～17					
8		16／細田 実	一問一答	17～18					
9	3/5(火) 9時30分～	4／上代 純子	一問一答	18～21					
10		10／中林 孝	一問一答	21～22					

令和6雲南市議会3月定例会 一般質問通告一覧表

令和6年2月22日

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
1	17	藤原 信宏 (一 括)	1. 学校教育環境の 充実について	<p>(1)家庭教育はすべての教育の出発点であり、子どもの教育の第一義的責任は保護者にある。少子化・核家族化、地域との関係の希薄化や現代的課題が多様化する中で、家庭教育力の向上を図るため、保護者が、時代に応じた子育ての知識やスキル、ネットやスマホなど現代的課題についての知識や課題を学ぶ機会の提供等の支援が必要だと考えるが、どのように対応するのか伺う。</p> <p>(2)悲惨な子どもの交通事故を防ぐには、安全教育の効果を持続する継続的な指導が重要である。子ども達が、日常的に継続して手軽に交通安全を学べる教材として、本田技研工業株式会社が開発した「デジタル交通安全かるた」がある。学校において、朝礼や終礼の時間などに活用できないか。</p> <p>(3)教員のICT活用の指導力・スキル向上に向けて、知識を習得できる環境や授業を行う際のサポート体制は整備されているか。また、教員をサポートする外部高度人材は確保されているか。</p> <p>(4)起立性調節障害の児童生徒が多数いる。この見た目では判断が難しい疾患について、保護者や学校関係者が特性を正しく理解し連携を深めて、きめ細かい支援をしていくことが重要だ。対応について伺う。</p> <p>(5)境界知能にあって、本人の努力不足ではないにも関わらず、自信を失い苦しんでいる子どもが多くいる。課題を認識し、早い段階から認知機能に関するトレーニングを行うなどの支援をすべきだがどうか。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 財政健全化に向けた取り組みについて	<p>(6)片耳難聴児も学業やコミュニケーション、登下校時の安全等に支障がある。一側性難聴児をしっかりと把握し十分配慮すると共に、補聴器購入費助成の要件を片耳難聴にも適用すべきだが、見解を伺う。</p> <p>本市の財政は悪化の一途を辿り、住民の福祉の増進という自治体本来の目的達成が困難になってきている。財政状況を改めて認識し、健全化に向けて真剣に取り組んでいかねばならない時期にきたと考える。</p> <p>(1) 普通会計の財政指標について、令和 4 年度決算の財政力指数 0.25、経常収支比率 97.0%は県内 8 市の最低値で、まったく弾力性が無い状態である。5 年間の中期財政計画では、実質公債費比率が単年度 15%に上昇し、50 億円を保ってきた財調・減債基金は 7 億円まで大きく減ると見込まれる。健全化基準上は問題ないとは言え、自由度の乏しいこれらの数値や財政状況について、どのように認識し分析しているか。</p> <p>(2) 今後 10 年先の歳入歳出や起債残高(特に実質的な市の負担額)がどのように推移していくと見込み、健全財政に向けてどのような対策を取っていく考えか。</p> <p>(3) 令和 6 年度の当初予算は、財調・減債基金 16 億円を取崩しているが、予算編成において工夫した財源確保と経費削減、事業の選択と集中の取り組みについて、その内容と効果額を問う。また令和 6 年度における目玉事業は何か。向こう 5 か年の大型投資的事業について数点、内容と予算規模、主な財源を示されたい。</p> <p>(4) 合併特例債は令和 6 年度で終了するが、10 億円の発行残高があ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>る。最大限に発行し、積み残し事業を掘り起こして前倒し実施、或いは計画事業への充当を図るべきと考えるがどうか。</p> <p>(5) 土地開発基金の目的は土地の先行取得で、計画事業完了に伴い現金化されるべきものである。基金内訳は土地が多く、機動性に欠ける実態が進んでいる。事業化されていない塩漬け土地について、用途見直しや一般会計での引取り、売却処分を図って、可能な限り早期の現金化が必要であるがどうか。</p> <p>(6) 健全財政へ向けて大きな鍵を握るのが、公共施設等総合管理計画の着実な執行である。次世代の負担を抑えるため、実効性の高い確たる方針を定め、危機感を共有して、全庁挙げて確実に実行しなければならない。これまで計画の着実な執行は行われているか。また、今後の執行に向けた心構え、決意を問う。</p> <p>(7) ラメールの大規模改修について、安易に保有量の全面保持を前提に進められていないか。管理計画の基本は適正化・縮減である。まずは、将来更新時の類似施設の機能分担・集約方針を熟議・決定し、縮小して残す施設部分を中心とした改修に留めるべきではないか。また、社会体育館にあっても、保有量・適正配置の決定が先決ではないか。財政の現状と課題を認識した市長の賢明なる答弁を求める。</p>	
2	11	松林 孝之 (一問一答)	1. 人口減少に対応する都市計画について	<p>厚生労働省から 2050 年の生産年齢人口の推計が示され、山陰両県で本市は最も減少率が高い市であるとされた。</p> <p>(1) 市勢を表す一番の指標は何か。</p> <p>(2) 平成 26 年に定めた都市計画マスタープランでは定住機能エリア、中心市街地エリア、医療機能エリア、地域生活エリアとして地域の特徴に沿った将来の都市構造が示されている。それぞれのエリ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 公共施設等総合 管理計画について	<p>アが果たす機能と隣接圏域との交流軸の認識は現在も変わらないスタンスか。</p> <p>(3) 定住機能エリアの開発の進捗と実行度</p> <p>① 住宅施策として住宅団地の開発が急務であるが令和6年度中の計画は。</p> <p>② 隣接市域通勤者をターゲットとした宅地情報のアプローチが必要ではないか。</p> <p>③ 最下流域である加茂町の河川は平坦な土地柄から土砂の堆積が著しい。防災インフラ整備として県と協調し積極的に支流の浚渫を施し、河川流量を確保すると共に護岸強化を図り安全性を高めた上で宅地開発を早急に進めるべきでは。</p> <p>(4) 地域生活エリア(周辺区域)のビジョン</p> <p>① 隣接町である飯南町、奥出雲町と市民・町民間で連携や交流を密にし、経済活動や農林業を基軸に人口の流入を模索してはどうか。</p> <p>(1) 令和4年度、第2次雲南市公共施設等総合管理計画が示された。</p> <p>① 大東体育文化センター、木次体育館、斐伊体育館、掛合体育館、掛合体育振興センターは第2次方針では継続施設とされており、第1次方針とは異なるが整合性は取れているか。</p> <p>② 掛合体育館は整理対象物件として分類されていたが、この度いきなり建て替えの方針が示され合併後初の社会体育館施設の更新とされた。木次体育館や大東体育文化センターの方針との整合性が取れるか。</p> <p>③ 市長は小中学校の統廃合は行わないとの方針であるが、コロナ以降の出生数が激減し、特に周辺部の児童生徒数は確実に減少するが</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				方針を見直すべきでは。 ④市内全域の小中学校の在り方を検討すると共に、学校体育館と社会体育館施設の在り方を検討する必要があるのではないか。 ⑤人口推計と人口分布を考慮した公共施設の保有数とビジョンを伺う。	
3	6	梶谷 佳平 (一問一答)	1. 農業支援について	(1)「雇い入れ時教育」について 令和6年4月から、労働安全衛生法の規則改正に伴い農業者は雇い入れた労働者に対して農作業中の事故防止の為、8項目の「雇い入れ時教育」が義務付けとなった。 ①農業関係者への説明会は完了し、雇い入れの可能性のある農業者については、安全衛生責任者や担当者の選任が全て完了しているのか伺う。 ②雇い入れる計画がなかった農業者が、急遽雇い入れを行う場合の対応について伺う。 (2)令和3年食品衛生法改正で漬物製造業は、衛生基準を満たした施設を整備し営業許可を取得することが必要となった。法改正前からの製造者は令和6年5月末まで経過措置で販売が可能となっている。 ①製造者へ法改正の周知・支援等は実施したのか伺う。 ②法改正により事業を廃止するところはあるのか伺う。 ③市長は、今後、食文化をどのように支援して行きたいと考えているのか伺う。 ④市内企業の衛生管理の向上をめざして、FSSC22000、ISO22000等の国際規格認証取得支援を行っているのか。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. 自衛隊との共同避難訓練について</p> <p>3. 雲南市財政について</p>	<p>(3)令和3年7月災害復旧支援について 令和5年12月補正予算で災害復旧費用約9億円を減額し令和6年度へ繰り越したことで災害復旧がさらに先送りとなったことについて伺う。 ①市長は、農業関係者へ復旧の遅れについて経過報告、原因説明等を行っているのか。 ②令和6年度で災害復旧は完了するのか。</p> <p>(1)能登半島地震を見て避難訓練の重要性を再認識した。能登半島では、地区の自主防災組織の計画に沿い、住民らが運営を担う他、災害に係る支援機関(自衛隊、消防署・消防団、警察、災害ボランティア)が連携して避難支援を行っており、雲南市も普段の訓練時から支援機関との連携が必要と実感した。自衛隊との共同避難訓練を実施してはどうか伺う。</p> <p>(2)全国の市町村で防衛協力会を設立し、色々な支援(①避難訓練への参加や支援、②各種イベントに装備品を展示、③自衛隊音楽隊の演奏会の実施や中学生・高校生への演奏指導。)を受けている。雲南市にとって「防衛協力会」の設立メリットはあると思う。雲南市内で「防衛協力会」の設立機運が有る場合、市が中心となって設立することは可能か。また、中心になることは出来なくても、協力はできるのか伺う。</p> <p>雲南市は合併20周年となる中で、市内各所に同じような公共施設が複数存在する。市長は、「新築ではなく有る物を有効活用するため、長寿命化を図り活用したい。」と話された。これからは人口や税収が減少する中、先を見据えた雲南市経営を考えなければならない。雲</p>	



質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				南丸の船長である市長は、乗客である市民の声に耳を傾け、市民や市職員の将来を守る義務がある。 (1)人口減少等を見据えた公共施設の統廃合計画について伺う。 (2)市長の優先は箱物か。それとも市民や職員の将来か。	
4	12	中村 辰眞 (一問一答)	1. 県による事業拡 充に対する市の対 応について  2. 地域からの要望 の取り扱いについ	島根県議会 2 月定例会が 2 月 13 日に開会し、総額 4,600 億円あまりの来年度一般会計当初予算案が提案された。この中には本市においても事業拡充につながる予算が含まれている。 (1)こども医療費拡充について ①県はこども医療費の助成を令和 7 年度から中学生に対しても実施の考えを示した。この拡充があるとして、本市のこども医療費余剰額はいくらになるのか。 ②余剰となる予算でこども医療費無償化を高校卒業まで拡大できると考える。高校卒業までの無償化をする好機と思うが見解を伺う。 (2)男性不妊検査費助成の拡充について ①現在の本市における男性不妊検査費助成の条件等を伺う。 ②県の助成上限額は 1 子ごと 1 回のみ 2.8 万円の助成となっている。これを活用し市の助成も拡充できると考えるが見解を伺う。 (3)妊孕性温存療法支援について ①本市では妊孕性温存療法支援について明確に示されていないと認識している。今までは不妊治療の対象とならなかったが、県と連携を取り本市としても積極的に妊孕性温存療法支援を行うべきと考えるが見解を伺う。 最近、地域から市に出された要望に対する返答に対しての不満の声を聴くようになった。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>て</p> <p>3. 市立病院について</p> <p>て</p>	<p>要望事項に対してはすぐに実行できるもの、時間がかかるもの、検討が必要なものなど対応はそれぞれ異なることは承知している。</p> <p>(1)年間どれくらいの要望が出されているのか。</p> <p>(2)今までに出された要望のうち、まったく取り合わなかった要望はあるのか。</p> <p>(3)一度、要望先に対して返答をしておきながら、のちに数年間音沙汰がなかった事例がある。原因は何か。</p> <p>雲南市立病院は本市の中核病院として多くの方々から信頼を得ている。コロナ禍においては、積極的に患者を受け入れ、対応する看護師の方々も大変な思いをしながら職務を全うされていた。そのナイチンゲール精神には頭の下がる思いであった。</p> <p>(1)市立病院の評判について</p> <p>①コロナ禍はもとより平素より評判はよい。市民からの評判について市としてどのように認識しているのか副市長に伺う。</p> <p>(2)コロナ5類移行後の対応について</p> <p>①昨年5月にコロナ感染症が5類に移行した。その後、コロナ陽性者の受診対応はどのようになっているのか。</p> <p>②3日間水分も取れない状況下のコロナ陽性者が救急搬送された場合と、自身および家族が受診の可否の確認をした場合で対応に違いはあるのか。</p> <p>③先の状況下で平日の日中、家族からの受診希望が断られた事例がある。この対応をどう考えるのか見解を伺う。</p> <p>(3)ハラスメントについて</p> <p>市立病院内でのハラスメントには、職員の上下関係、職域の違い、</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>对患者及び対家族。など多岐にわたる発生要因があると考え。ハラスメントを皆無にすることは難しいと思うが、極力発生させない努力は、可能ではないかと考える。</p> <p>①医師や看護師に対するハラスメントの相談体制は確立されているか。</p> <p>②事務方の相談体制は確立しているか。</p> <p>③市立病院全体として、ハラスメントを起因とする退職者の有無を伺う。</p> <p>④全てのハラスメント事案に対応する責任者はだれか。</p> <p>⑤2022年6月1日より改正公益通報者保護法が施行され、常時使用する労働者の数が300人を超える事業者には、内部通報に適切に対応するために必要な体制の整備義務が課された(300人以下の場合には努力義務。公益通報者保護法11条)。</p> <p>ア)内部通報制度にかかわる法務担当者の有無を伺う。</p> <p>イ)通報対象事象に関して、外部弁護士などで構成される第三者委員会を設置する必要があるが体制整備について伺う。</p>	
5	5	鶴原 能也 (一問一答)	<p>1. 大東高校の寄宿舎の整備について</p> <p>2. 携帯電話不感地域の解消について</p> <p>3. 一畑バス大東線</p>	<p>(1)大東高校における空き家を活用した寄宿舎の整備について、改修工事の進捗状況を伺う。</p> <p>(2)運営に当たる各種ハウスマスター、炊事員さんなどの人員は確保できたのか。また、いつ入居者の募集を開始するのか伺う。</p> <p>(1)大東町久野地内、主要地方道玉湯吾妻山線川井峠付近では携帯電話が使えない。市内で携帯電話不感地域の実態について伺う。</p> <p>(2)市としての解消に向けた具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>(1)一畑バス大東線の運行終了に伴う、運行継続に向けた市の要望活</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>の運行終了について</p> <p>4. 大東町海潮の神楽の宿の修繕について</p> <p>5. 農畜産業の振興について</p>	<p>動の詳細と結果について市長に伺う。</p> <p>(2) 松江市・雲南市によるコミュニティバス路線の新設については、地元から運行時間、運行便数などについて十分協議の上、安定した運転手の確保など持続可能な取り組みとなるよう要望する声が上がっている、市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 出雲神楽の振興、観光列車瑞風の立ち寄り箇所にもなっている「神楽の宿」は観光施設として大きな役割を果たしている。しかし、かやぶき屋根は緑色のコケで覆われ、所々ペンペン草が生えた悲惨な状態にある。修繕の計画について伺う。</p> <p>(1) 所信表明で今年の秋に全国ブランド米産地生産者交流大会を開催し、米のブランド化戦略を本市から全国に発信するとされているが、市長の考える米のブランド化戦略とは何か伺う。</p> <p>(2) 県外都市部に向けた販売を強化するためには、高品質で安定した供給量の確保が必須条件だ。12月定例会一般質問で、プレミアムつや姫たたら焔米の認定率低下の要因について、関係機関と連携し認定率の向上に繋がる取り組みを検討すると回答されたが検討結果を伺う。</p> <p>(3) ブランド米の価格の維持、向上に取り組む農家をどのように支えるのか市長の考えを伺う。</p> <p>(4) 食料・農業・農村基本法改正案の主要施策に主食用米から、麦、大豆、飼料用米、WCS用稲などへの転換の推進がある。雲南市は水田活用の直接支払交付金の転作希望面積が令和5年度で257ha、水稻共済細目書提出面積1,637haに対し15.7%と少ない。特に飼料用米、WCS用稲及び米粉用米については転作希望面積が39haだった。転作</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>希望が少ない要因をどのように分析されているのか、また転作面積の拡大に向けた取り組みについて伺う。</p> <p>(5) 飼料用米などの生産が定着すれば農業産出額の増加や耕作放棄地の抑制などに効果あると考える。雲南地域和牛振興ビジョン案に地域の農地維持に貢献するため、耕種農家が行う飼料用米などの生産の取り組み、耕畜連携の推進体制を検討するとされているが、検討ではなくすぐに実行すべきと考えるが市長の見解を伺う。</p> <p>(6) 産直売り場に欠かすことの出来ない漬物を製造するためには、食品製造業法に基づく営業許可が必要となった。なお、令和3年5月31日以前から営業している施設は、今年5月31日までに新食品衛生法に基づく営業許可が必要となった。</p> <p>①この法律改正の周知と許可取得に向けた研修等どのような方法で実施されたのか伺う。</p> <p>②許可取得に向けた市独自の漬物製造等事業継続支援事業の申請者数を伺う。</p> <p>(7) 市内の農事組合法人は設立から10年超が経過し、設立当時の役員の多くは高齢のため引退された。しかし、役員の後継者がいないことから定款を変更して対応している法人も多い、市はこのような実態を把握しているのか。またこのような法人組織継続に向けた後継者対策と支援策について伺う。</p> <p>(8) 市長の考えるJAが運営する肥育センター事業の引継が可能な事業者の条件とは何か。</p> <p>また、次回令和9年開催の北海道全共に向けた市の推進体制と支援策について伺う。</p>	



質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>り返り次期 10 年 のステージへ</p>	<p>非常事態宣言」から 7 年後の平成 24 年に宣言解除された。それから約 10 年間で大型事業(プロジェクト)が次々と計画・実施され再び財政非常事態へと向かいかけている。</p> <p>①平成 17 年の非常事態宣言がされた時の財政状況はどうであったのか。</p> <p>②令和 6 年度予算編成での財政状況はどうか、宣言がされた時とのその違いは何か。</p> <p>③燃油高騰や物価高騰、賃金アップにより扶助費、補助費、物件費など今後の歳出の増加が見込まれる中、歳入増の見込みは少なく今後の財政運営への影響はどうか。</p> <p>④特に、必要に迫られた普通建設事業は予測のつかない事業費アップを危惧するが今後の財政運営への影響はどうか。</p> <p>⑤平成 24 年までと大きく違う点は、賃金や物価高騰の大きな波が押し寄せており、これまでの普通建設事業を抑え込むだけでは健全財政は無理があると思う。加えて公共施設の老朽化は平成 24 年から 10 年が経過し、公の施設の老朽化対策は以前にも増して避けては通れない喫緊の課題であり、財政出動は「待ったなし」の状況であると思うが健全財政に向けての策はあるのか。</p> <p>⑥合併 20 年を迎えて、再び新たな大型プロジェクトが目白押しとなるが 10 年後の人口は 5 千人から 6 千人は減少し、2 万 8 千人程度と推定する。「入りを量り・出を制す」の基本からするとその対応は「入りは量れないが・出は制する」ために、選択と集中が必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>⑦第 3 次総合計画を基本に、次期 10 年への新たなステージへと向う</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>確かな財政運営は堅持しなければならないが見通しはあるのか。</p> <p>⑧「財政緊急非常事態」の危機感を意識するが見解を伺う。</p>	
7	1	多賀 法華 (一問一答)	1. 民生委員・児童 委員について	<p>(1)一昨年(2022)の12月に、三年に一度の民生委員の全国一斉改選があった。定数240,547名に対し、委嘱数が225,356名と戦後最多とみられる15,191名の欠員。制度発足時は、行政の補助機関として主に生活保護世帯への相談、支援が任務とされてきた。最近では、在宅高齢者の生活支援、児童の健全育成、子育て支援、障がい者の自立生活支援など活動範囲がひろがっており、地域福祉の推進、向上のためには欠くことのできない存在となっているが、負担感が増しており、またプライバシーにどこまで踏み込んで良いのか、個人情報について悩んでおられる委員の方も多いと聞く。今後の民生委員・児童委員の担い手不足について、全国民生委員児童委員連合会から、「令和6年度政府予算案における民生委員の担い手確保対策予算の新設に伴う地方自治体への働きかけについて」、都道府県・指定都市の民生委員児童委員協議会の会長宛に文書が送られた。地域の実情や課題に応じた民生委員の担い手確保対策として、「民生委員協力員の設置」「子ども民生委員の委嘱」「ICTの活用」など、民生委員の担い手確保のためのさまざまな取り組みを検討する必要がある。今回、特にこの3つについて伺う。</p> <p>①民生委員協力員というのは、民生委員の指示・指導のもと地域の見守り活動等の活動の補佐を行うもので、これを設置し、民生委員活動をサポートする体制づくりをすることができる。雲南市では、地域自主組織があり、地域福祉推進員がすでに補佐的なことをされているところもあると思う。個人情報のことで、なかなか情報の共</p>	



質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>有がむずかしいところもあるので、地域自主組織と更に協力していくためにも、地域福祉推進員さんの協力が得られるところから、民生委員協力員の体制づくりをしてはいかがか。</p> <p>②全国民生委員児童委員連合会の2022年のアンケートでは、民生委員・児童委員の名前を知っていた人は64%に対し、役割や活動内容まで知っていたのは、わずか5.4%だったということで、民生委員の活動の周知、理解を広げる必要がある。「子ども民生委員の委嘱」は、イメージとしては、小学生を対象として委嘱し、地域の見守り活動へ体験参加を行い、その保護者にも民生委員の重要性の理解を促すものである。実際、熊本県の天草市では、社会福祉法人 天草市社会福祉協議会さんが、平成27年度から、「天草市子ども民生委員の委嘱」をされている。他にも先進的に取り組まれているところもあると思うので、教育委員会と協力し、できることから取り組むことができないか伺う。</p> <p>③「ICTの活用」については、イメージとして、仕事をしながら民生委員活動がしやすい環境を整備するため、タブレット端末などICTを活用して、情報共有や定例会議のオンライン化を図ったり、大学生や高校生が民生委員応援団を結成し、SNS(Instagramなど)を活用した周知広報活動を実施することにより、若い世代の理解を促進するとともに、民生委員活動への参加・協力を促すなどできるのではないかとある。雲南市にあった事業を考えるのに、多世代、他職種を巻き込むと思ってもよらぬ担い手確保の対策も出てくるかもしれない。市役所に配置されている第一層の生活支援コーディネーターは、地域福祉力の形成の役割もある。こうした民生委員の担い手確保の</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 子どもの権利について	<p>ため、様々なところと繋ぎ役をしてもらえると良いのではないかと 思う。特に他部署との連携が必要なので、市役所に配置されている 第一層の生活支援コーディネーターの方に期待したいと思うがいか がか。</p> <p>(2)雲南市内の中には、先の3つではすぐに解決できないであろう、 少子高齢化、人口減少による担い手不足が深刻な所もある。市とし てどう考えるか。</p> <p>(1)子どもの権利とは、すべての子どもが心身ともに健康に育つた ために必要とされる権利である。日本ユニセフ協会ホームページに、子 どもの権利条約の考え方が載っている。子どもの権利条約には、4つ のコアとなる一般原則があり、これらが同時に成立している必要が あるとされている。「差別の禁止(差別のないこと)」「子どもの最善 の利益(子どもにとって最もよいこと)」「生命、生存及び発達に対す る権利(命を守られ成長できること)」「子どもの意見の尊重(子ども が意味のある参加ができること)」である。これらの原則は、日本の 子どもに関する基本的な法律である「こども基本法」にも取り入れ られている。子どもの権利に関する条例を独自に定めている自治体 も増えている。雲南市では、独自で条例を定める必要はないか伺う。</p> <p>(2)去年のうんなんヒューマンライツフェスタ 2023 の講演会で、子 ども家庭庁アドバイザーの西崎萌さんが、「子どもの権利と子どもの 声を聴くこと」で講師をされたが、この中で話された国際 NGO 公益 社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンさんがされたアンケー トの調査結果がかなり衝撃的だった。雲南市内の学校でもアンケー ト調査を行うべきと考える。早急にアンケートすべきと思うが、い</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>かがか。</p> <p>(3)雲南市では、こども家庭センターができ、ワンストップの相談窓口ができる。子どもを育てる責任はまず親にあり、国がそれを支援するというので、保護者の支援はもちろんだが、子ども本人、当事者の声を聴く取り組みもきちんとできるのか。子どもアドボカシーの講座など受けておられる職員の方はおられるか伺う。</p> <p>(4)令和5年「全国中学生人権作文コンテスト」島根県大会で、市内の中学生の作文が、優秀賞に選ばれた。特に市長、教育長、教育委員会の方は読まれたか。</p>	
8	16	細田 実 (一問一答)	<p>1. 能登半島地震と島根原子力発電について</p> <p>2. 第3次雲南市総合計画について</p> <p>3. 地方創生と周辺</p>	<p>(1)能登半島地震で志賀原発に様々なトラブルが発生した。幸い大事故に至らなかったが地震によってさまざまなトラブルが発生することが改めて実証された。島根原発の安全性は大丈夫か。</p> <p>(2)島根原発は地盤隆起などの事態に耐えられるのか</p> <p>(3)原発震災(地震と原発事故の同時発生)の際、道路寸断、家屋倒壊などにより、避難、屋内退避など困難と思う。実効ある避難計画に見直す必要はないのか</p> <p>(4)島根原発2号機再稼働同意の際、六ヶ所再処理施設は今年上期には完成するとの説明であったが、上期の完成は無理なようだが、どうするのか。</p> <p>(1)素案やタウンミーティングの意見を読むと、キャッチフレーズや理念で終始している感がある。市民に分かりやすく具体的に市の方向を提起、議論すべき。そのためには基本構想の決定、を急がず基本計画とセットの議論を進めるべきではないか。</p> <p>(1)雲南市が目指す人口「増」のために市長は周辺地域への対策が必</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>地域の整備</p> <p>4. 賃金引き上げと 市政について</p> <p>5. 地方自治法改正 の動きについて</p> <p>6. 地方の声は国政 に届いているのか</p>	<p>要と強調されてきた。所信表明では農村 RMO などの言葉もあるがどう取り組むのか。言葉だけでなく周辺地域振興への財政的裏付けはあるのか。</p> <p>(2) 辺地債適用地域への各種事業への補助率の上乗せなど行なうべきではないのか。</p> <p>(3) 周辺地域にとって道路(生活道路)の整備は定住、安全・安心・快適な生活に直結する。市民の不安の声を聞く。生活道路に対しての予算拡充がないように思うが拡充の必要はないのか。</p> <p>(1) 賃上げが生活、日本経済にとって大きな課題となっている。行政としての対策をどう考えているか。</p> <p>(2) 公契約条例の制定によって、働く人の雇用安定を図るべきではないか。</p> <p>(1) 今国会で非常時に国の指示を可能にする地方自治法の改正が予定されている。これは、地方分権の流れに逆行することへの恣意的な関与を強める危険性がある。知事会からも提言書が出され危惧を示している。市長の所見を伺う。</p> <p>(1) 自民党とお金の問題で政治への信頼が失われている。地方の声は国政に届いているのか。市長の政治理念からどう政治への信頼を回復すべきと考えるか。</p>	
9	4	上代 純子 (一問一答)	1. 防災対策の点検 について	<p>能登半島地震により、改めて雲南市における防災対策の点検の必要はないか。</p> <p>(1) 食料備蓄の追加や、分散配備のあり方、災害時の状況を把握するドローンなどの配置や活用策の構築などが必要とを感じるがどうか。</p> <p>(2) 避難生活を想定した女性や妊産婦、乳幼児向けの用品や離乳食な</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 関係人口について	<p>どの不備や見直しは必要ないか。</p> <p>(3) 災害時の衛生的なトイレや、シャワーなどの対応は万全か。</p> <p>(4) 災害時における透析患者や糖尿病患者などの対応の構築は十分か。</p> <p>(5) 家族の安全を確保するために、今一度各家庭における事前対策の周知や勉強会開催などの対応は必要ないか。</p> <p>(6) 乳幼児を育てる家庭に対して、災害に備えた事前の持ち出し品など情報提供や、物品等の斡旋などは考えられないか。</p> <p>(7) 災害時に支援が必要な高齢者や障がいのある方などが身を寄せるのが「福祉避難所」だが、能登半島地震では避難者を受け入れられなかったりする施設が相次ぎ、そのあり方が課題となっている。雲南市でも改めて点検・確認する必要はないか。</p> <p>(8) 今回の地震は真冬に発生した。避難所で寒さに耐えることが辛いとの報道があった。過酷な寒さや積雪に耐えうる備蓄の点検や、真夏の災害も含め避難所運営の検討が必要ではないか。</p> <p>(9) 島根県は、災害時の広域支援拠点に掛合の里の選定を目指している。雲南市道の駅活性化ビジョンに基づき、この選定にあわせて「道の駅掛合の里」を至急整備する必要はないか。</p> <p>交流・定住人口でもない第三の人口と言われる「関係人口」。その創出・拡大が叫ばれる中、吉田町宇山地区の里山照らし隊が行う草刈り応援隊の活動は、まさにその代表的な取り組みである。交流が生まれ、住民のモチベーションが上がると聞くと、何よりも定住しなくても課題の解決ができるという好事例だ。</p> <p>(1) 吉田町宇山地区のブランド米と農地を維持するために始められ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>3. U ターンなどの定住施策について</p> <p>4. AYA 世代(思春</p>	<p>たこの取り組みについて、どう評価されているのか。</p> <p>(2) この良い事例を全市に広げ、様々な課題解決に向かう必要はないのか。</p> <p>(3) この活動には経費が掛かるが、行政として、この取り組みに対して何らかの応援や支援をする必要はないのか。</p> <p>(4) 海士町は島外との交流促進で活性化を図るために、オフィシャルアンバサダー制度を始め、関係人口を増やしている。雲南市もこうした奇抜な方策によって、魅力の発信を行い、関係人口と協働する対応は考えられないか。</p> <p>雲南市では、積極的な UI ターン施策を進められ、定住推進員の配置、空き家等の住宅情報の提供、就業・就農支援、生活の支援、定住情報サイト「ほっこり雲南」の活用など、先進的な対策を行っていると感じる。</p> <p>(1) 今年は、雲南市合併 20 周年を迎えるが、これを機に若者が同世代とのつながりや、ふるさと雲南市について考える機会を創出し、U ターンのきっかけづくりや若者の繋がりを構築することができないか。</p> <p>(2) 平成 28 年頃に、「30 歳の成人式」が盛大に開催されたと聞く。30 歳という節目の年に、同級生や起業・転職などに挑戦している同世代と交流する機会を設けることが目的であったようだが、再びこのような催しを行う、または支援する考えはないか。</p> <p>(3) 行う考えがあるとするれば、市はどのような対応をするのか。(行う考えがないとするれば、何が課題で対応できないか。)</p> <p>(1) 女性特有のがんのひとつである子宮頸がんは、AYA 世代といわれ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			期・若年成人世代)の予防接種について	<p>る 15 歳から 39 歳の女性で発症することが多い。子宮頸がん予防ワクチンは、平成 25 年から積極的勧奨を中止したが令和 4 年 4 月から再開され、平成 9 年度生まれから平成 17 年度生まれの接種機会を逃した女性も公費でワクチン接種ができるようになった。この「キャッチアップ接種」も含めて接種状況はどうか。</p> <p>(2)接種されない方の中には、積極的勧奨の差し控えの期間があったことなどから、抵抗感を持たれる声もあるのか。</p> <p>(3)子宮頸がん検診は 20 歳以上が対象だが、若い世代の受診率を上げるための自治体からの周知の工夫は。</p> <p>(4)本年 4 月から国が推奨する公的検診に子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染を調べる検査について導入する方針を固めたが、雲南市では HPV 検査を導入する考えはあるのか。</p> <p>(5)令和 5 年度に創設された、がん治療等に伴う定期予防接種再接種費用助成事業の接種状況はどうか。</p> <p>(6)風しん単独ワクチンや麻しん風しん混合ワクチンの接種状況はどうか。</p>	
10	10	中林 孝 (一問一答)	1. どうする雲南市、どうなる雲南市について	<p>(1)市長の政治姿勢について</p> <p>①市民の望む市政と市長の進める市政は同じベクトルか。</p> <p>②自主財源が少なく依存財源に頼る本市の財政をどう評価し、どう改善するか。</p> <p>③「入るをはかりて出を制す(為す)」という故事に照らして本市の財政をどう評価するか。</p> <p>(2)歳入に関する諸課題について</p> <p>①歳入面の課題を伺う。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>②歳入増加のために何をしなければならないか。また、これまでの取り組み実績を伺う。</p> <p>③企業誘致等に向けた取り組み実績、成果を伺う。</p> <p>④今後 10 年を見通した地方債発行額、償還額、残高、実質公債費比率を伺う。所見も伺う。</p> <p>⑤地方債が抱える将来リスクについて伺う。</p> <p>(3)歳出に関する諸課題について</p> <p>①「出を制す(為す)」についての所見、歳出面の課題を伺う。</p> <p>②市長発言にある「今ある施設(もの)をいかして使う」の真意、意義を伺う。</p> <p>③公共施設等総合管理計画について所見を伺う。</p> <p>④加茂文化ホール・ラメールの改修計画について所見を伺う。</p> <p>⑤今後予定される大規模事業に対する所見、並びに財政への影響について伺う。</p> <p>⑥雲南広域連合、雲南市・飯南町事務組合の組織や業務について見直す考えはないか。</p>	
11	13	原 祐二 (一問一答)	1. 農業・農村の活性化について	<p>(1)地域計画アンケート調査による、農業の現状と課題、地域が取り組みたいこと、取り組むべきこと。調査結果からの施策(支援メニュー)を問う。</p> <p>(2)地域の立地条件に沿った、農業の展開方向を探り、農業生産基盤の整備と農村生活環境基盤等の整備を総合的に行う事業(中山間地域農業農村総合整備事業)について、事業内容とこれまでの主な成果を問う。</p> <p>(3)今後の中山間地域農業農村総合整備事業に対する、行政としての</p>	



質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. 上下水道事業について</p> <p>3. 複式教育について</p> <p>4. 管理職の待遇改善・女性活躍につ</p>	<p>事業周知・取りまとめ・取り組み方針を問う。</p> <p>(4) 農業・農村の活性化に向けた、市役所の組織体制(災害復興後)について問う。</p> <p>(1) 水道整備・管理行政の事務移管について</p> <p>① 令和6年4月1日施行の厚生労働省から国土交通省及び環境省への移管に伴う、背景・機能強化(メリット)を問う。</p> <p>② 厚生労働省が進めてきた広域連携及び官民連携について、事務移管による今後の動向、県が策定する水道広域化推進プランの現状と本市の広域化への姿勢を問う。</p> <p>(2) 拡張事業(山王寺本郷地区ほか)について</p> <p>① 山王寺本郷地区水道整備ほか拡張事業について、計画給水量に対する、直近の給水量と割合(給水量/計画給水量)、生活用水としての接続(利用)状況を問う。</p> <p>② 低給水率(低接続率)区域の水質管理方法・水質管理経費、今後の対応を問う。</p> <p>(3) 水道料金の改定(案)、小口径の基本水量(8 m<sup>3</sup>)の廃止による、下水道使用料での基本水量(8 m<sup>3</sup>)のあり方と水量区分の見直しを問う。</p> <p>(1) 本市における複式教育(複式学級)の現状を問う。</p> <p>(2) 学習過程での課題、学校・教職員への支援状況を問う。</p> <p>(3) 複式教育の業務を支援するスタッフ配置、AI ロボット(ユニボ先生)の活用について、教育長の見解を問う。</p> <p>(1) 管理監督職員の待遇改善(管理職手当の改定)について、市長の見解を問う。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			いて	(2)女性職員の活躍に向け、目標とした設定値(女性職員の管理職割合、男性職員の育児休業、利用可能な男性職員の出産休暇、利用可能な男性職員の育児休業)の到達度を問う。 (3)市役所・水道局における、女性職員の管理職登用など女性職員の活躍について、市長の見解を問う。	
12	8	上代 和美 (一問一答)	1. 能登半島地震災害から学ぶべきことは何か	(1)能登半島地震は想定を超える未曾有の災害をもたらした。市長は3月定例会の所信表明で「この大規模な災害での課題や対応などをしっかり把握し、中山間地域における防災・減災対策のあり方などについて再検討していく」と表明された。そこでいくつか質問する。 ①東日本大震災・能登半島での甚大な地震など日本列島各地で大規模な地震が起こっている。市長は島根県でも大規模な地震が起こりうるという認識はあるか。 ②今回の地震では志賀原発で重大なトラブルが発生しているが、もし、福島原発事故のような重大な過酷事故を起こす複合災害となっていたら、避難計画はまったく機能しなかったと思われるが、能登半島の現実を見て市長はどう思われるか。 ③能登半島地震は複数断層が連動したとされる。原子力規制委員会は志賀原発の審査で新たな知見として取り入れると報じられている。島根原発においても宍道断層とその東に続く鳥取沖断層との連動性について新たな知見として再検討・再評価をすべきではないか。 ④中国電力は島根原発の再稼動を今年8月に予定している。しかし、能登半島地震の現実には島根原発で事故があった際の避難計画が機能しないことを明瞭にした。そもそも、原発は技術的に未完成であり、使用済み核燃料や核のゴミの処分もできない。地震大国であり、活	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. ラメールの大規模改修について</p> <p>3. 高齢者等のバス・タクシー利用料金の助成について</p>	<p>動期にある日本列島に原発を動かすところはどこにもない。島根原発の再稼働はやめるべきではないか。</p> <p>⑤能登半島地震では広範囲で長期間断水が起これり、被災者にとっての日常生活の困難さを痛感した。市でも防災備蓄品の種類、数、置き場など再点検をし、必要な備品を計画的に拡充する必要があるのではないか。</p> <p>(1)ラメールの大規模改修について、市民から懸念の声を聞く。身近な市民要望が実現されなかったり、市民への財政的負担が増える中で懸念されるのは当然のことである。そこでいくつか質問する。</p> <p>①市のホール3施設(ラメール、チェリヴァホール、古代鉄歌謡館)の役割、今後の施設維持の方針は。</p> <p>②ラメール大規模改修の内容、それに伴う予算、財源、スケジュールは。</p> <p>③令和6年度で必要最小限の改修(雨漏り、トイレ)を行い、同時に市政懇談会などで広く市民に知らせ声も聞き、改修の内容の精査を行っていくべきではないか。</p> <p>④コロナ禍で市政懇談会が実施されなかったが、今後、市政懇談会を復活させ、重要な市政課題を市民参加で協議していくべきではないか。</p> <p>(1)利用者から「デマンドバスが使いにくくタクシーを使うが、券面額の上限を引き上げてもらえないか」また「どうしても遠くの病院へ通院しなければならないので券面額の上限を増やしてもらえないか」などの声を聞く。令和4年に担当課が行っている利用者・事業者アンケートでも同じ要望が寄せられている。上限額を引き上げて、</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			4. 小規模農家への 支援について	<p>交通弱者への支援拡充をすべきではないか。</p> <p>(1)産直市に野菜などを出荷している何人かの農家から、「野菜の生育履歴などの情報を入れたシールの添付を求められている。器械の更新も必要になるかも知れず大変」また、「器械の更新や面倒なことが増えるため、近所の高齢の産直農家さんたちがこれを機に出荷をやめると言っている」などの声を聞いている。小規模でも農業を持続してがんばっておられる方、野菜の出荷で生きがいを持ってがんばっておられる高齢者への支援が必要だ。JA との連携も図りながら、市として器械更新補助などの考えはないか、見解を求める。</p>	
13	2	安田 栄太 (一問一答)	1. 地方創生に向けた課題について	<p>(1)人口減少している中、人口規模を維持することは非常に困難になっている。人口の社会増を目指す本市において若者への情報発信や確保対策は重要と考える。</p> <p>①若者への情報発信は SNS の活用が重要と考えるが、本市の SNS の活用状況と現状を伺う。</p> <p>②近隣の自治体は高校卒業後の進学先として専門学校等の学校があり、市内外からの若者確保につながっている。本市には高校卒業後の進学先となる学校がないが、誘致する考えはないか所見を伺う。</p> <p>(2)全国各地の自治体が子育て世代に結婚、妊娠、出産、子育て、住宅、就業の支援を行い、定住促進を図っているが、本市においても様々な支援のメニューがある。</p> <p>①子育て世代に選んでもらうために他自治体との差別化を図る必要があると考えるが、本市における強みと弱みは何か。</p> <p>②近年、松江市や出雲市の周辺地域に沢山の住宅が建っている。市内就業に向けた対策も重要だが、松江市と出雲市に隣接しているこ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. 雲南市職員の人材育成について</p> <p>3. 既存施設の長寿命化について</p>	<p>とを本市の強みと捉えて、市外で働き市内に住み子育てをするスタイルを構築できないか見解を伺う。</p> <p>③住宅施策の中でも予算規模が大きい子育て世帯住宅地購入支援事業の実績と成果について、市の見解を伺う。</p> <p>④周辺部においては農地が多く農地法等の手続きに煩雑さを感じ、市外の整備された宅地を購入する市民もある。地域自主組織と連携してミニ団地の整備をすることで購入者の負担軽減や周辺部での宅地購入の可能性もある。地域自主組織と連携して宅地購入のニーズ調査を行う考えはあるか見解を伺う。</p> <p>(1)市外に住む市職員が多くいるが、休日や夜間に災害が発生した際に、速やかに市役所に集まり災害対応が出来るのか心配する声がある。出来る限り市内に住んで欲しいと思う市民は多い。</p> <p>①現在の市職員の市外在住者の人数と割合は。</p> <p>②災害対応に係る市外在住の市職員に対する市の見解を伺う。</p> <p>③雲南市職員の人材育成方針では、職員個々の役割として、市民の視点で考え行動し、地域の一員であることを自覚し積極的に地域活動に関わる大切だと推進方針に謳っている。協働の姿勢で地域の声やニーズを拾っていく上で、地域活動に参加するためにも市内在住を促すことも必要と感じるが市の見解を伺う。</p> <p>④市内経済を循環するためにも、市内在住を促すうえで市職員の住宅手当の改正を行っている自治体もある。住宅手当の改正について見解を伺う。</p> <p>(1)本市は、老朽化した施設が多くある中で、既存施設は長寿命化して活用して行くとされた。市内には老朽化した野球場等の屋外施設</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			4. 大東体育文化センターについて	<p>があるが、広い屋外施設に防災機能を備えることで、老朽化した施設を合理的に整備することができると思うが、市の見解を伺う。</p> <p>(1)大東体育文化センターは解体の方針が決定し、大東公園体育館敷地内に体育館機能部分を増設するとされた。</p> <p>①大東公園体育館敷地内のどこにどのような規模のものを増設するのか。</p> <p>②文化機能部分はどのようにするのか。</p> <p>(2)解体後の跡地利用はどのようにするのか、見解を伺う。</p>	
14	3	児玉 幸久 (一問一答)	1. 自主財源確保に向けた取り組みについて	<p>(1)ふるさと納税</p> <p>①新年度は5億円を目標としているが、納税額を増やすため、具体的にどのような点に力を入れていくのか。</p> <p>②企業版ふるさと納税も含め、寄附型のふるさと納税を増やしていくべきと思うが市の見解は。</p> <p>(2)ガバメント・クラウド・ファンディングの取り組み</p> <p>①令和5年11月より、クラウドファンディング型のふるさと納税が新たにスタート。6件のプロジェクトで寄附を募集されたが、寄附の現状は。</p> <p>②寄附額が目標額に達しなくても、寄附額の9割前後を団体に交付する制度となっているが、寄附が大幅に下回りプロジェクトの実施が困難な場合の対応は。</p> <p>③対象プロジェクトの取り組み状況について、市として、どのように公表していくのか。</p> <p>④今後、市として、積極的にこの制度を活用していく考えか。</p> <p>⑤市が直接実施する事業について、プロジェクト(個別事業)を選択</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. 学校教育環境の整備について</p> <p>3. 観光振興について</p> <p>4. 新たな総合計画について</p>	<p>して、クラウドファンディングを行っていく考えはあるのか。</p> <p>(3)その他の取り組み</p> <p>①ネーミングライツや広告なども含め、新たな財源確保に向けた市の取り組み状況は。</p> <p>(1)市内小中学校からは、多くの修繕等の要望が出されているが、なかなか実現されていないのが現状。修繕の為の十分な予算を確保すべきと考えるが、市の考えは。</p> <p>(2)子育てにやさしいまちをPRしている雲南市であり、また、安心して学校生活を送れることは最も優先して考えなければならないこと。学校教育環境整備の優先度について市長の考えは。</p> <p>(1)昨年、12月に中国メディアの「国際最も美しいまち賞」を受賞したとの報告があった。その後の、中国側(エージェント、個人)からの問合せはあるのか。また、中国からの観光客は増えているのか。</p> <p>(2)インバウンドの相手先として台湾に力を入れるとのことだが、中国も含め他の国に対してのアプローチはどのように考えているか。</p> <p>(3)インバウンドを進めていく上ではキャッシュレス決済が不可欠。市内の観光施設、飲食店等での導入状況と今後の対応は。</p> <p>(4)JR 木次線を活用した観光、あめつちの乗り入れもあるが、通常列車も含め、木次線に乗ること自体が観光となるよう取り組む必要があると考えるが、市の考えは。</p> <p>(5)新年度から、観光協会に市職員を派遣するが、観光協会でのどのような役割、業務を行うのか。</p> <p>(1)基本理念の「変わらず、変える」。何をどのように変えていくのか、少し、具体的に示さなければイメージ出来ない、現時点で、こ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			5. その他雲南市が抱える諸課題への対応について	<p>の点をこう変えていきたいというものがあれば示していただきたい。</p> <p>(1)人口減少対策</p> <p>①若者の人材還流の取り組みには期間を要す。最低でも5年程度は継続していく必要があるが、市の考えは。</p> <p>②就職のための若者世代の県外流出が課題。市内に在住している高校・大学生等が市内に就職、または市内に居住し松江・出雲等に通勤する場合への支援が効果的ではないか。財源の確保も含め検討する余地はないか。</p> <p>(2)脱炭素の取り組み</p> <p>①公共施設(特に指定避難所、道の駅等)の太陽光発電の現状と今後の設置計画は。また、学校等の太陽光パネルの更新・修繕が必要なところもあるが今後の予定は。</p> <p>②企業サイドの取り組みが一つの鍵。脱炭素に寄与する技術、製品、ビジネスモデルを有する企業の誘致、連携(企業チャレンジ等)等を強化すべきと考えるが、市の考えは。</p> <p>(3)空き家対策</p> <p>①空き家の活用について、市内に住所が無い場合改修の支援が受けられなかったという事案を聞いている。もっと使い勝手の良い制度を考えるべきではないか。</p>	